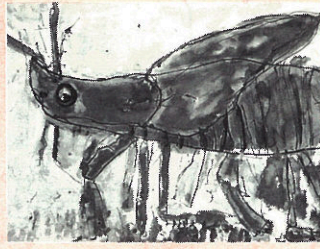


よしながさちえ



ほそだ たつや



まえだ たくみ



### ふるさとへ

20

田中百合子さん

(小郡町在住)



### 命あるかぎり

生まれ育った懐かしい古市の里を妹達と墓参りに訪れ、何人かの方々にもお会いして昔話に花が咲き感激も一入でした。思い出しても懐かしい小学校時代、陸軍記念日には千畳敷へ、海軍記念日には二位ノ浜へと細く、険しい道を登ったものでした。

戦争の申し子みたいなのに、昭和十六年十二月八日、結納を済ませ小郡へ来てそれから五十年。一人娘を育てるのも大変な時代でした。

主人も十九年秋、小倉からフィリピンへ出征して一度着いた便りのまま、帰らぬ人となってしまうました。その間時代にもまれ、本家の酒造会社の手伝い。丁度、毎日新聞連載小説「蔵」を地でゆくそのもの。杜氏達の食事の世話

や畑仕事の手伝い、そのあいまには酒の樽づめ、一升瓶洗い、瓶づめと最限もありません。思い出おせば、本当に長い年月でした。けれど今だ元気なもの不思議そのものと思つて居ります。

今年最終五十年の節目に当り、山口県護国神社もこの度、県下戦没者の妻達五、二八二名の方々の努力と協力により、新しく美しい「参集殿」が出来上がり四月十七日盛大な式典が催されました。思い出に生きる妻達のせめてもの御奉仕と心より思つて居ります。

春は桜の花が咲きほこり、夏お盆には「みたま祭り」秋は「万灯絵」と一人一人紅提灯の火を点し、おごそかな式で秋の星空は一層美しさを増

## 日置俳壇

〈兼題 秋風〉

- 無医村に救急車鳴る秋の風 西村亥子代
- 眞実に生きて七十秋の風 大村 一路
- 秋風に早や足の冷え我も老ゆ 国司ハル子
- 阿了寺お山めぐりや秋の風 秋枝タキ子
- 木洩れ陽の地紋踊るや秋の風 吉村一泉女
- 帰郷して肌感じる秋の風 塩瀬 米江
- 秋の風たなびく雲のゆるやか 塩瀬 米江
- 再会もかなわで故里秋の風 福山スミエ

〈雑詠〉

- あどけなき児等の笑顔や天高し 松岡ヨシ子
- ライスセンター灯は煌焼と豊の秋 柚花 岩門
- 畦つゝ、む炎となりて曼珠沙華 宮本やすの
- 炭つぎて妻を茶によぶ後の月 古谷 桃月
- 近道をしたる証の草じらみ 富田佳津美
- ただ一つ山家の自慢虫の声 塩瀬 米江
- コスモスを大きくゆすりダン普行く 池永 君江
- 旅人に応う紅葉の整はず 河内みさほ

### 筆者紹介

大正十年生まれ。古市出身。旧姓 中野(中野三店) 深川高女、山口高等女学校を経て、結婚。現在、小郡町遺族会の役員。家族は、娘夫婦と孫の四人暮らし。

### ※ふるさとへ登壇者 大募集!

自薦・他薦を問いません。企画情報係まで